

寺報
善巧

発行
 938 富山県下新川郡
 宇奈月町浦山497
 白雪山善巧寺
 宇奈月(07656)(5)-0055

寺
こよみ

十月

一日 お講 板屋

五日 お月見 夢の会・婦人会

七日 うらやま日曜学校

二日 富山教区総代会一行来院

六日 本講 三日市

善巧寺報恩講

の法統継承の映画を上映します

両日ともおまいりバス運行。

二二日 うらやま野上り落語会

おなじみ入船亭扇好さんを中心

に江戸の若手落語家三人が来院

開演は午後一時からバス運行

東狐・板屋・新浜報恩講

今回は、

三〇日 秋の聞法旅行 妙好人を

三二日、
たずねて

の山陰の旅！。ようこそようこ

その源左さんのふるさと鳥取を

たすねて 念仏に生かされて生

きた素早い人生にふれさせて
いただくでしょう。

三、五華堂與之關係是怎樣的

7

一、

巧

員
丁

報

セシ

寺
金
口

告

1



空華殿に勢ぞろいした報恩講のお仲間、ご法中の方々
(昨年の前住33回忌で撮影)

十月十九日 逮夜(後一時) 初夜(後七時)
十月二十日 晨朝(前八時) 滿座(後一時)

報恩講勤修

布教 本願寺
布教使 浦田秀栄師

十月十九、二十の両日、例年のように、秋晴れのもと、善巧寺報恩講が賑々しく勤修されます。御門徒の方々、お仲間の僧侶方が文字通り一堂に集まって、親鸞聖人の御恩徳を讃嘆する此の行事は、私達にとつて一年の大切な区切りです。「ああ、又、報恩講の季節になったな」と、一種の感慨を抱いて此の日を迎えるのです。殊に善巧寺の報恩講は、お仲間の寺々のトップを切つて勤められる事になつて居り「善巧寺の報恩講には、雨は降らない」と、古老方は得意になつてお話しになり、收穫が終つて心豊かに寺への道を急がれるのです。お仲間の法中方も此の日が最初の顔合せて、十一月中頃まで、各寺々の報恩講に参り合せて頂くことになつて居ります。

此の法中方と云うのは、内山の常照寺、若栗の真照寺、発願寺、光照寺、荻生の称名寺、教隆寺、三日市の光闍寺、生地の順昌寺、それに浦山善巧寺、法輪寺、照行寺の合計十一カ寺です。浄土真宗本願寺派、富山教区、黒西組に属する寺院です。

十九日は、荻生称名寺が導師をして下さいます。お仲間の寺々の報恩講が終ると、今度は、門徒の方々を一軒一軒廻らせて頂いて、

報恩講のお仲間

明年の三月に廻り終ると云うのが
 毎年の習わしとなつて居ります。
 毎年の事ですから、御参詣の門
 徒衆も、各寺々の住職の顔を見覚
 えていらつしやるし、例えば、荻
 生のお寺へ行つても、生地のお寺
 に行つても、善巧寺の門徒の顔を
 見ることが多いわけです。いわば
 浄土真宗のお流れを頂く善男善女
 が一体となつて、住職と門
 徒が手をつないで報恩講の門
 季節を迎えるわけでしょう
 そして、此の有難い法の集
 いの中心に、私は、何時も
 明教院を位置づけるのです
 善巧寺に「空華廬門弟帖」
 が残つて居り、それには、
 越中国だけでなく、遠くは
 九州や奥州からもやつて来
 た空華廬の学生たちの名前
 が書かれています。
 そして、此の方々も、明
 教院を導師とする善巧寺報
 恩講の法要に参修していた
 二百年前の有様をまざまざ
 と思ひ描くのです。
 新川郡荻生村称名寺住持
 独玄。弟子自聞。若栗村真照寺住
 持順超。弟子玄龍。嗣法超禪、五
 男知礼。と書かれているサインを
 見ると、二百年前のお仲間の読経
 の声が聞えて来るようです。そし
 て、その響きが連綿と伝わつて、
 今年も、又、お仲間の御厚志を迎
 えて善巧寺報恩講が営まれるので
 す。

明教院僧鎔師と空華廬(三)

空
華
と



明教院
僧鎔師
伝

上市・明光寺 土井了宗師

僧鎔師によって創められた学派は廬の名をとって空華学派と呼ばれています。この学派の流れをくむ学匠達は、自坊で新しく学塾を開いても、入門帖には決して他の名称を用いることなく、みな

空華廬を称しています。又塾則も、始祖僧鎔師が宝暦八年に制定された「僧約、制法」を使っています。

ことに高弟柔遠師（滑川市高柳・明楽寺）は、僧鎔師が亡くなられた時には既に四十二歳になつており、年齢的にも、又学



空華末流の行信教校

識・徳望から云つても、当然その後を継いで第二代の廬主になつておかしくない立場にありました。だが、入門者は、すべて先師に譲つて十年間は一人も弟子をとっていません。五十二歳から初めて自分の弟子として入門帖に記帳してあります。又空華の末流行信教校（鮮明明学創設）では、今でも僧鎔師の「僧約・制法」

僧鎔師はまさに一派宗学を代表する大学匠でした

が使われているということです。

こうしたことからも、僧鎔師がどれほど、門下生達から敬慕されていたかがわかります。

明和二年、僧鎔師が四十

三歳の時、学林の看護という役

今日でいえば学生部長とでも申し

は、安永五年、五十歳の時安居の

講者という大役を命ぜられ、「如来

会」を講義していらつしや

います。さらに、安永八年、五十七歳の時に、再び安居

で「観念法門」を講じられました。この頃になります

と、まさに一派宗学を代表する大学匠としての評価を得ておられます。

学林（竜谷大学の前身）では、一派宗学の最高責任者を能化といいました。この能化職の制度は、文政七年勸学職の制度に改められるまで七代続きました。僧鎔師が学林で活躍なさつて

いた頃は、功存という方が

六代目の能化としてその職にありました。ところで、この功存師の後継者は衆目の見るところ、僧鎔師であろうとの評が専らでありました。

が、残念なこと

つています。僧鎔師の門弟達に対する細やかな配慮と、学問に対する厳しい態度がよく窺われます。

学林での僧鎔師

この写真は、京都・大谷本願寺にあり空華三師のお墓です。中央に僧鎔、右に道隱、左に柔遠。その左に見える小さい墓は行信教校の創設者 利井鮮妙

学林講主の記録



十一月

明光寺にのこる僧鎔自筆の制条

三〇日 石田 報恩講

二八日 浦山新 報恩講

二七日 中野 報恩講

二六日 新中 報恩講

二五日 中野 報恩講

二四日 中野 報恩講

二三日 中野 報恩講

二二日 中野 報恩講

二一日 中野 報恩講

二〇日 中野 報恩講

一九日 中野 報恩講

一八日 中野 報恩講

一七日 中野 報恩講

一六日 中野 報恩講

一五日 中野 報恩講

一四日 中野 報恩講

一三日 中野 報恩講

一二日 中野 報恩講

十一日 中野 報恩講

一〇日 中野 報恩講

九日 中野 報恩講

八日 中野 報恩講

七日 中野 報恩講

六日 中野 報恩講

五日 中野 報恩講

四日 中野 報恩講

三日 中野 報恩講

二日 中野 報恩講

一日 中野 報恩講

おいらが寺の「ほんこさま」

報恩講話

入善町芦崎
宗四寺住職
本願寺布教使

浦田 秀栄 師



およろこびになつています。やるせないみ親（如来様）の叫び声が御名号（南無阿彌陀仏、御念仏）だよと法蔵因位の本誓を聞かされた時、調和が乱れ苦悩で閉ざされていた私の人生が明るく、そしてすばらしく開かれ往生一定のしあわせ者に仕上げられたことのおよろこび、これにまさるよろこびはないのです。

『ほんこさま』こそ、

おいらが寺の『ほんこさま』、毎年の事ながら待遠しい極みです。今年も又報恩謝徳の念いをこめて詣らせて頂く事のうれしさで胸がいっぱいです。新駕聖人の御化導（み教え）に会えなかつたら、苦悩の私の人生が調和のみだれたままで終ることでしょう。

『租師聖人の化導によつて法蔵因位の本誓を聞く』と三代目の覚如様が

報恩講の起源

覚如上人が二十六才の時本願寺第三代目をおつぎになり、親鸞聖人の三十三回忌の法要をおつとめ

になりました。その時『報恩講式』をあらわされて親鸞聖人の御影像の前で朗読なされ、聖人の御恩徳をさんだんなされ、感謝なされるとともに浄土真宗の御みのりを広く内外に宣言されたのです。それ以来年々御開山親鸞聖人の御正忌命日の一月十六日（陰暦では十一月二十八日）に際して、報恩講をつとめるようになったのです。本願寺では毎年一月九日から十六日まで『御正忌報恩講』をつとめられています。七日七夜の間ですから『おしつちゆや』といいますが、この地方では『おしつやさま』と昔からいわれています。御本山の『おしつやさま』にならつて各末寺及び御門徒の家々でも、年に一度の報恩講をつとめ大切な年中行事の一つにしているわけです。



報恩講私記

三徳將勸四輩衆
一讃真宗興行徳
二嘆本願相應徳
三述滅後利益徳
伏乞三寶哀愍納受

『報恩講式』について

先きのべましたように覚如上人が第一回目の報恩講の時にあらわされ朗読なされた『報恩講式』（私記ともいい寺の御満座で拝読されます）には、三徳文と申しまして親鸞聖人の御徳を三つにまとめて讃嘆なされています。（一）真宗興行の徳（二）本願相應の徳（三）滅後利益の徳、であります。今日、数多くある宗教の中で唯一つ本願力回向の御念仏の旗じるしがあざやかに輝いています。この本願の各号のはたらき一つで往生一定の真の仏弟子にさせて頂いた私、実に御開山の真宗興行のため

のでしよう。本願の名号はあたたか母のオッパイの如く、地獄一定の私に相應して仕上げられ、そしてそそがれている偉大なるはたらきであります。本願相應のみ教えがうなづかれるのです。御聖人の肉声が聞けないこの私が毎朝仏前で『正信偈』を拝読するとき、御聖人の御化導（み教え）に只今会わせていただき、すばらしい一句一句がたしなまされます。

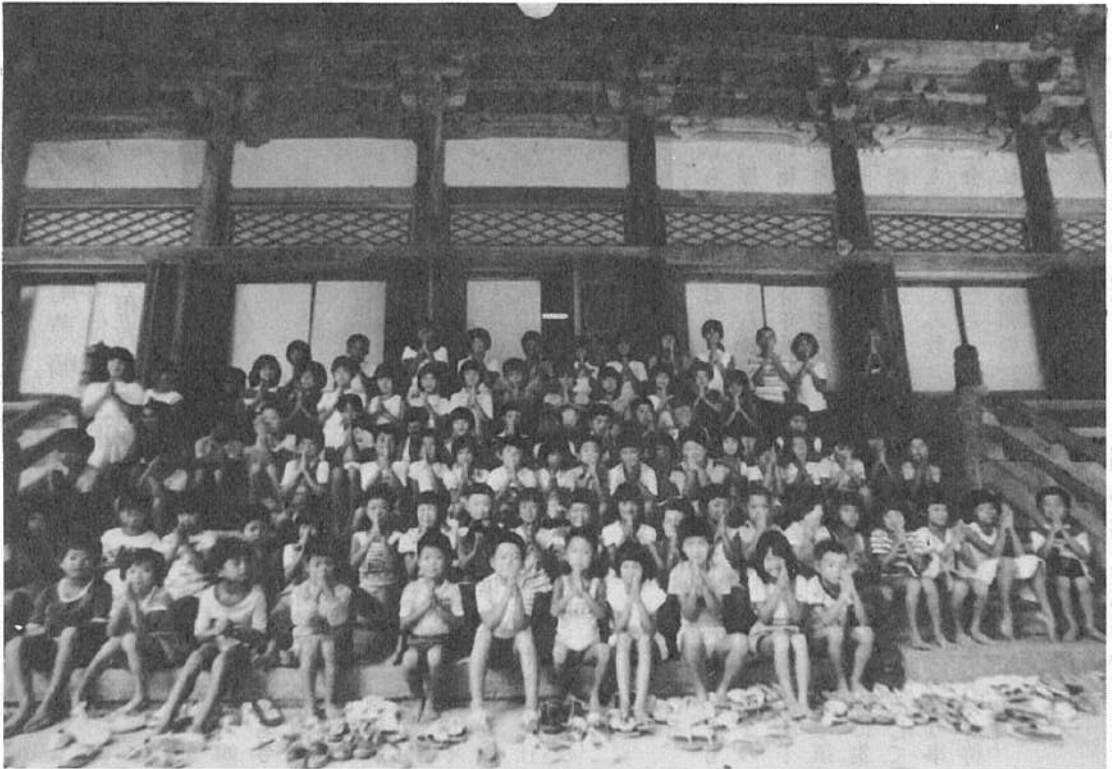
おろかな私にとつては価値ある人生に開いておくれた御聖人は、ただびとは思えず善知識様だと礼拝せずにはおれません。

如来大悲の恩師は御念仏の生活で御恩報謝を致しましょう。師主知識（御化導）の恩徳はせめても、の年に一度なりとも、報恩講をつとめて愈々開法し感謝の礼拝を致しましょう。

報恩講を縁として愈々開法し、御聖人の残された真実のみ教えを生活の中に受け取り、真の仏弟子らしく実践することこそ大切なことであり、これでこそ報恩講法要をつとめさせて頂く意義だといふべきでしょう。

ただいま九十一人！

うらやま日曜学校



影絵と人形芝居のおたのしみ会

御堂の階段にズラリ勢ぞろいしたのは、うらやま日曜学校のよい子たち。前列から一年、二年……五年、六年とならんでいます。数えてみたら、なんと九十一名。とにかく、この夏休みはにぎやかなことでありました。

七月二十三日の開校記念日にはじまって、休み中は盛りだくさんのプログラム。八月一日には京都女子大のお姉さんによる人形芝居



ソーレ・ドドンとドドンと盆踊り



打ちました！が、優勝ならず

と影絵の夕べ。四日の日校からは何か一つ良いことをしようと、全員で浦山の町のゴミひろいをはじめました。集計すると大人のゴミと子供のゴミが同じくらい。どちらも町をきれいにするために注意しようということでした。

六日には日校リーダー研修会があり、五、六年有志十人が富山の別院へ。そして十二日からは盆踊りの練習会。十五日は本番。ユカ



リーダー養成研修会に別院へ



夏のお別れ大パーティー

夕姿がとてもかわいかったです。

十八日はゴミひろい。二十七日は富山でソフトボール大会。三年連続優勝なるか！残念、四位。

二十一日は北電のおじさんの奉仕でこども映画会。銀河鉄道はステキでした。そして三十一日は夏のお別れ会。にぎやかで、たのしくて、思い深い夏の日校でした。

秋の新米おにぎり大会は十月七日午前九時からデース。



みんなそろって町をきれいにゴミ拾い

善巧寺総代会開く

8月19日



寺の一年間の運営を審議する善巧寺総代会は、八月十九日、善巧寺空華殿で開かれ、二十一人の各地区総代さんの熱心な話し合いの結果、五十三年度の決算、五十四年度の予算を別表の如く決めました。この席で決定した主なものは次の通りです。

◇伝灯奉告法要懇志について
来年本山で行われるこの法要に關連して、善巧寺では約百五十万円の懇志を割当られているが、五十七年に三法要をつとめる關係上、門徒の負担がかさむため、寺とし

ては、この懇志を三年間の分割で、寺費予算の中から本山へ納めることにします。

◇お講のおとき代百円に

五十二年一月からお講の食事代は七十円でしたが、材料費の値上がりで当番の方に負担をかけたいましたので、この十月一日のお講から百円に値上げすることになりました。

◇トガの大木を手術

浦山で一番高い木として知られていた境内のトガの木の頭の部分の枯れがひどく、危険な状態なので早急に上部を切り落すことになりました。

◇おまいりバス路線を検討

この春からスタートした善巧寺

のおまいりバスは、遠くの門信徒の方からよろこばれています。まだコースにはいっていない地区にも運行できるようにと、コース変更を検討することになりました。新コースは六ページに。

◇本堂の荘厳に特別寄進を
現在の本堂で不足している道具（前卓など）やいたんでいる部分（金泊など）の調製に、広く門信徒の方の特別寄進を呼びかけることになりました。

九月十日 月曜、くもり。昨

日富山市教育委員会より電話あり。今日の会合は、十二時十分より。人員九十八名。昼食持参とのこと。会場設営に、女房、娘は大重。広間に卓を並べたり、お湯を沸かしたり、床の間の花を活けたり。こんな事には、男性は全く役に立たぬ。富山市民大学の講師を引き受け、一年十二回の講義を、市図書館でやって来たのだが、係の希望で、今回は、善巧寺を会場にして呉れとの次第「豊かな心」コースと云うので、主旨は、「歎異抄」の講義を通して親鸞の信仰と思想にふれ、日本の仏教哲学に対する理解を深めると書かれてある。

第一回は五月八日で、今回は第八回に当る。

先日の台風で折れた庭の杉の大枝は、若院がのこぎりを持出して片付けている。

定時より二十分遅れて、二台のバスにて到着。本堂にて読経。広間で昼食。再び本堂にて、講義。念仏者は無礙の「道なり」の章を、一時間半話す。年輩の男女で、聴講態度も申し分ない。四時、一行、富山に帰る。

五才、六才の孫二人、自転車運転に熱中、やっと乗れるようになって嬉しくて仕方がない模様。銀



佳職日記

杏樹の廻りをグルグルと廻っている。流石に長男の方は、悠々とスピードを出している。夕食六時。日が短くなった。

九月十一日 火曜

快晴 秋晴れの気持ちのいい日、十時半の電車で、三日市の医者へ行く。週一回の血圧も、此処二カ月程、全く平常である。但し、血液検査の結果、リポ蛋白の数値が高過ぎる由。脂肪、砂糖の摂取過多とのこと。食いしん坊の私には、食養生は難題である。

東三日市から電車で富山へ。車窓から見る富山湾の秋色絶佳。能

53年度 決 算		
収入	1,547,900	
支出	1,660,000	
	(-)	112,100
宗法教管運保維	120,000	
要化繕営	410,000	
持	47,200	
	788,200	
	66,000	
	80,000	
	148,600	

54年度 予 算		
収入	1,500,000	
支出	1,500,000	
宗法教管運保維	700,000	
要化繕営	50,000	
持	340,000	
	200,000	
	80,000	
	130,000	

寺 ことみ

十二月

一日	お講 下立
五日	愛本新 報恩講
六日	中ノ口 報恩講
一〇日	善巧寺婦人会
一四日	下村 報恩講
一六日	お講 浦山
一七日	下立愛本 報恩講
一八日	内山 報恩講
二〇日	音沢 報恩講
二五日	うらやま日曜学校
三〇日	除夜会

おまいりバス



善巧寺の「おまいりバス」が、この秋からコースを一部変更し、十月は十九、二十日の報恩講と、二十一日の落語会に運行することになりました。

この春から遠方の門信徒の方、体の弱いお年寄のため、少しでもラクにお寺に参っていただくうとスタートしました「おまいりバス」は、なかなかの好評で、利用状況も上々といったところです。しかし、これまでの調べでは、地域によって乗客の差が大きく、さらにまだコースにはいいない地区でも「是非うちの方へ」という声もあつて、コースを一部変更することにしました。もちろんこれは試験的なものですから、まともって利用したいという方は、その地区の総代さんを通して寺へ連絡下されば検討いたします。

十月十九、二十、二十一日のおまいりバス運行予定

Aコース 東狐―上野―浦山新
―愛本新―中ノロー―栗虫坂下―音沢―内山―下立
Bコース 中陣―石田―生地―栃沢―中新

うらやま野あがり落語会

ご好評をいただいております。善巧寺の落語会、毎度野休みの六月にご気嫌をうかがわせていただいておりますが、今年はおまけにもう一回、稲刈りすんでホッとひと息の十月二十一日午後一時、聞けばお寺の報恩講お満座の翌日とかで、これまたけっこうな縁だところこんでおります。

さて、今回は名付けて「野あがり落語会」―おなじみ、入船亭扇

十月のコース日程決まる

若院が日頃、お講や各地区の婦人会、講演会などでお話をし、サンケイ新聞にも連載していただいた「お茶の間説法」が、京都の百華苑から本になって発売されました。

この本は、今日一日を心豊かに生きぬくための心のよりどころをお目覚め―台所―一番―いどばた―オフィス―チャンネル―ハウツー―お茶の間と生活のサイク

秋の聞法旅行―山陰へ

10月29・30・31日 汽車の旅

ことしの秋の聞法旅行は、久しぶりに汽車の旅で、お念仏に生かされた妙好人のみあとをたずねて山陰地方へ出かけます。

十月二十九日に富山を出て汽車で京都のご本山へ参り、その足で山陰線をひた走り鳥取へ。ここは「ようこそようこそ」の源左同行のふるさとです。今年には源左さんの五十回忌、その実家やお寺にお

報恩講廻りのお願い

いよいよ報恩講廻りの季節となりました。門徒の方々もこの浄土真宗の最も大切な行事を迎えるためにいろいろ心配りをしているらっしゃることでしょう。

お仏さんのおそうじ、お花、ローソク、お香、それにあなたのおじゆず、聖典…

読ませていただきます。今回は若院、法輪寺、照行寺の三人でまわります。なお、寺費は三法要準備の四年目です。昨年同様でお願いいたします。さらに、いま、寺では、門徒の方の現在帖の作成を急いでおります。あなたの家族の誕生日などもうかがいますのでご協力を。



ルに合わせてつづったものです。推せん文で永六輔氏は「なんでもない言葉で、なんでもないことをいっているのに、そのなんでもないことが、実はなんでもないくはないと気がついて、ハッとすることがあります。この本にはそれが沢山あります。寺にあり。是非一冊お手元に。」

合掌

ごえはん良くなられてよかったです。住職の元氣な姿をみて門徒の方々が顔をほころばせていらつしやる。うれしいことです。その住職の「報恩講のお仲間」の一文「明教院を導師とする二百年前のお仲間の読経の声が聞えてくるようです」に、僧俗一体となって連綿と伝えられて来たお念仏のよろこびを感じます。

三十数年欠かさず来院の浦田秀栄師の報恩講法話、今回はご執筆もいただいて三頁に載せました。耳で聞くあの声を思いうかべながら味読いただきたいものです。

土井了宗師の連載(二頁)は今回で三回目、僧侶の遺徳を正しく、わかりやすく、あざやかに描いて下さっています。後世に伝える貴重な資料でもありますので熟読下さい。

住職日記にあるように、長男(六才)、次男(五才)が自転車に乗れるようになりました。そしてこの夏からお正信偈も覚ええました。よろこんでいます。

